

# 山友会 白書

## 2020

特定非営利活動法人 山友会

2020年度活動報告「山友会白書」





## ルボ・ジャン 代表挨拶

この1年、山谷の人たちは新型コロナウイルスへの感染を恐れながら厳しい環境の中で生活しているように思います。食堂を休止してからは山友会に来るおじさんが減って、みんなが集まっていた山友会の前の道はさびしくなりました。それだけではなく、いろいろな事情によって、山友会とのつながりが一時的に途切れてしまうおじさんもいます。そんなある日、不思議な再会がありました。

その日、私は病院に行く前日でした。足が不自由でひとりで歩いて行けないので、いつもは付き添ってくれる人と一緒に病院に行きます。しかし、付き添ってくれる予定だった人の具合が悪くなり、一緒に行けなくなってしまいました。内科、整形外科、循環器科…診察は3回、検査は5回もあります。しかも、その病院はとても広いのでたくさん移動しなければなりません。天気予報を見ると、明日は大雨と言っています。ひとりで病院に行く自信はなくなり、悩んでいました。

ちょうどその時、半年以上連絡がなかったおじさんから電話がありました。前はとても仲が良かった人でした。そのおじさんは、仕事の現場でアパートの鍵をなくしてしまったようで、もしかしたら私に合鍵を預けているかもしれないと思ったそうです。私は合鍵を預かっていなかったのですが、次の日に鍵を仕事場に取りに行くまでの間どうするかを相談しました。結局、その日は



仕方なく私の家に泊まっていくことになりました。料理が得意なおじさんは、買い物をしてごちそうを作ってくれました。そして翌日、そのおじさんがそのまま病院に付き添ってくれました。しばらく付き合いがなかったのに、困っていたときにちょうど連絡をくれたのには驚きましたが、こういう不思議なことはよくあります。

新型コロナウイルスの感染がひろがり、今までどおりの生活ができなくなってしまいました。いつも当たり前のように会って話していたおじさん達とも、なかなか会えなくなってしまいました。でも、「生きてる間も一緒。死んでも一緒」という山友会のお墓のポリシーのとおり、亡くなった人も、最近会えてない人も私にとっては心の支えです。困っているときにはお互いに助け合って、見守ってくれていると感じています。今は会えなくても、あきらめずに待っていれば、いつか会えると信じています。だから、おじさん達にもあきらめずに私達を待っていてほしいのです。

## 大脇甲哉 理事長挨拶

いつも山友会の活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。皆さまに2020年度の活動報告をお届けします。

この一年は新型コロナウイルス感染拡大に大きな影響を受けた年でした。事務所前の路地はおじさん達の団らんの場ではなくなり、山友会クリニックを受診する患者の待合場所となりました。

相談室は少人数のスタッフで生活相談とドヤ・アパートで暮らす方の見守りを行っています。それに加えて、山谷以外からも生活に困窮した方の相談が増えました。山友会クリニックでも30～40代の新患が目立つようになり、昨年度からは難民支援団体からの紹介で毎月数名の外国人の患者が受診するようになっています。

炊き出し・アウトリーチは、感染防止のためにボランティアの人数を制限しながらほぼ例年どおりの活動ができましたが、食堂での昼食提供は休止、居場所・生きがいづくりプロジェクトと山谷・アート・プロジェクトは活動を縮小しています。山友荘は重症化リスクの高い高齢で慢性疾患を抱えている入居者が多いため、共用部分の消毒や入居者の健康管理など感染防止対策に多くの労力を割かなければならない状況です。毎年、おじさん達とスタッフとで行っていた納骨や墓参りもみんなでお参りすることは難



しく、少数のスタッフだけで行いました。

一方で新しい活動も始まりました。食堂が休止した代わりに、食堂のスタッフ、相談員、看護師などが上野駅周辺を巡回して食堂を訪れていた路上生活を送る方などへ弁当を配布する「上野アウトリーチ」です。

山谷の町にも変化がありました。近年、ドヤから観光客向けのビジネスホテルに業態を変えた施設が少しずつ増えていましたが、中には外国人観光客の激減に伴い、宿泊料金を下げて生活保護受給者の受け入れを始めたところも出てきたようです。山谷のおじさん達にとっては、今までは少なかったエレベーター付のドヤが増えたことになりました。

コロナ禍の厳しい状況はしばらく続いていくことが予想されますが、山谷の人々に寄り添いながらこれからも活動を続けていきたいと思っております。皆さまの変わらぬご支援を賜りますよう、何卒宜しく願い申し上げます。

## 特集 終わりの見えない 苦境を乗り越える ために

### 新型コロナウイルス感染拡大による活動への影響

いまだ収束の兆しが見られない新型コロナウイルスの感染拡大は山友会の活動に大きな影響を及ぼしました。2020年4月の緊急事態宣言（1回目）の発令を受けて、山友会では支援対象の方々、ボランティア、スタッフの感染防止を第一に考え、山友会クリニック、相談室、炊き出し・アウトリーチ、山友荘以外の活動を中止しました。宣言解除後は中止していた活動についても感染防止対策が整ったものから順次活動を再開していきましました。

再開にあたっては、2020年5月に感染対策委員会を設置し、山友会クリニックの看護師を中心に各部署のスタッフと日常の感染防止対策の検討や見直しなどを続けてきました。年明けの感染拡大の第三波以降は、支援対象の方々やスタッフ・ボランティアに感染者が発生したシナリオを想定して、感染拡大を防ぎつつ活動を継続していくための対応についてまとめてきました。複数のスタッフの感染など最悪のシナリオを考えれば不安は大きくなりますが、限られた人手で活動を続けていかなければならないからこそ、事前の備えが

山谷・アート・プロジェクトの様子



必要なのだと感じます。（感染対策委員会は2020年度末時点で計31回開催）

2020年度末時点で、人が密集することが避けられない食堂は休止、居場所・生きがいづくりプロジェクト、山谷・アート・プロジェクトは活動を縮小して実施しています。休止となった食堂ですが、「食を通してつながりをつくる」という活動の原点に立ち返り、おもに食堂を利用してくださっていた上野駅周辺で路上生活を送る方々に月2回お弁当をお届けする上野アウトリーチ」の取り組みが生まれました。この困難な状況の中においても、従来の方法に依らず孤立した方々とつながりを持ち、居場所をつくるための試行錯誤が活動の最前線で行われています。

### コロナ禍の活動現場で 起きていること

感染拡大が影響を及ぼしたのは活動だけではありません。昨今の報道でも取り上げられているように、感染拡大による社会・経済状況の変化によって新たに生活困窮に至る方が増えてきています。新規相談者は234人と昨年度に比べて36人増加しました。生活相談・支援事業の報告にもあるとおり、新たに生活に困窮された方々にも可能な限り対応していけるよう、フリーダイヤルの開設や

炊き出しの様子



メール相談、宿泊費・生活費援助の拡大などの取り組みを行ってきました。宿泊費援助を含む緊急一時宿泊の延べ人数は、昨年度が76人に対して361人と大幅に増加しました。

コロナ禍以前から路上生活を送られている方々の生活にも影響がありました。1回目の緊急事態宣言期間中にはいくつかの炊き出しが中止になったり、日雇いの仕事が少なくなったりしたことなどにより、より苦しい生活に追い込まれました。さらに、テレビや新聞、インターネットから未知の感染症がどのようなものかという情報を手軽に手に入れることが難しい状況にあります。どのように感染を予防すればよいかかわかったとしても、マスクや消毒液を自分で購入するのは大変なことです。とくに重症化リスクの高い高齢の方や持病がある方は、とくに不安な思いで過ごされたのではないかと思います。

簡易宿泊所（ドヤ）で暮らす方々の中では、感染を恐れてより閉じこもりがちな生活になってしまう方もいました。さらに、地域生活サポートの取り組みによって生活の見守りを行っていた200名弱の方々のうち、多くの方々は食堂が休止となったことでお会いする機会が少なくなりました。感染防止のためにボランティアの方々の参加人数を制限せざるをえなかった中で、訪問によってそれを補うには限界がありました。

「上野アウトリーチ」の様子

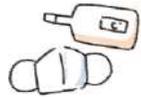


新たに生活に困窮された方々への相談と体調を崩された方への緊急対応、200名弱の地域生活サポート対象者のうち介護が必要な方、人との関わりを閉ざしたりしているなど特に見守りが必要な方への訪問によって、山友会の日常のほとんどは埋め尽くされました。

このような逼迫した状況の中、2020年度中にドヤやアパートで暮らす方のうち16名が他界されました。そのうち5名の方はご自身のお部屋で誰にも気づかれずにお亡くなりになりました（2019年度中は亡くなった方8名／孤立死2名）。感染拡大前に比べて、見守りに人手や時間を割けなくなっていることはこのことに大きく影響していると考えられます。状況が大きく変化している中で、それに対応できる人員体制などを整えていくことは急務です。

ともに活動をつくっているおじさん達、活動にご協力いただいているボランティアの方々、スタッフの皆は、感染リスクがゼロとはいえない緊張感の中でも、未曾有の変化に対応し続けようとしています。関わった方たちの笑顔を取り戻せるように、皆と力を合わせながらこの終わりの見えない苦境を乗り越えていきたいと思っています。

# 活動報告 1. クリニック



ボランティアの医療スタッフが、主に路上生活者など健康保険証を持たない方に対して、無料診療を行っています。専門的な治療が必要な場合は、相談員と連携して、治療を受ける上で必要な公的支援制度の利用について相談しています。

## ▼ 2020 年度 山友会クリニック 活動実績



4月から中止していた  
マッサージと鍼灸は  
7月から再開

おじさんにもスタッフも  
マメに感染予防

ハイ消毒

了解

お久しぶりです

ありがとうございます  
待たせてよ

最近どうですか

山友会は  
糸糸のカレー

若い人の受診が増えています

あの...  
インターネットを  
見て来たの  
ですが

入って入って

よかったです

どうですか

## 【2020年度山友会クリニック疾患件数（上位10位）】

高血圧症	1,070
354 鍼灸・整体・マッサージ	
223 筋・骨格系疾患	
184 皮膚疾患	
102 消化器疾患	
80 精神疾患	
73 糖尿病	
61 風邪・感冒	
26 アレルギー・免疫疾患	
25 泌尿器疾患	

山友会の昼食がカレーライスの時、入居者の方が突然「カレーが、しゃぶい！」  
「カレーが寒い？」  
「寒いんじゃない、しゃぶい」  
サラサラのカレールーの事を「しゃぶい」と言うそうです。

# 1 年を振り返って

新型コロナウイルス感染拡大が収束することなく1年が終わりました。山友会の活動の中では縮小したり形を変えたりしたものがありましたが、山友会クリニックでの無料診療は通常どおり続けていくことができました。この1年は、スタッフ全員で感染対策のための話し合いを定期的に行って対策を講じ、おじさん達にもマスク着用や手指消毒などの感染対策にご協力いただきました。診療所内は頻回に消毒や清掃を行い、厳密な感染対策に努めてきました。これらの感染対策と、ボランティア医師・看護師や鍼灸・マッサージ師の方々のほとんどが活動に協力し続けてくださったことで、活動を継続できたのだと思っています。

山友会クリニックに来院される患者さん達の疾患には大きな変化はありませんでした。高血圧症などの慢性疾患のある高齢の方、風邪や花粉症の方、肩や腰・膝などに痛みのある方などが多くいらっしゃいました。また、今年度は若年層の方が昨年度、一昨年度よりも多く受診されました。コロナ禍の影響で職場や住まいを追われ、行き場を失った人たちが増えた影響もあるようです。インターネットで調べて来たり、他の支援団体から教えてもらったことをきっかけに来院される方もいました。

ある日来院した男性は、身なりが整っている方でした。コロナ禍の影響で生活が苦しく

なり、精神的に追い詰められ体調も崩してしまっていたようです。山友会クリニックで診療を行い、相談員が生活保護制度利用の手助けをして、現在では専門医のいる医療機関に通院しています。そして、最近では毎日のように山友会に来て元気な顔を見せてくれています。

時代とともに「ホームレス」状態にある方々の様相は変化していますが、コロナ禍の影響でますます多様化している印象があります。それに応じて私たちの対応も変化する部分もありますが、さまざまな理由で医療を受けられない方、不安な気持ちを訴える場がない方に心を寄せて、手を差し伸べ寄り添っていくことに変わりはありません。

今、世界中が未知の病に不安を抱え困惑しています。こうした時だからこそ、山友会を頼ってくる方々をいつものように暖かく受け入れる姿勢を心がけたいと思っています。

(看護師 丸田)

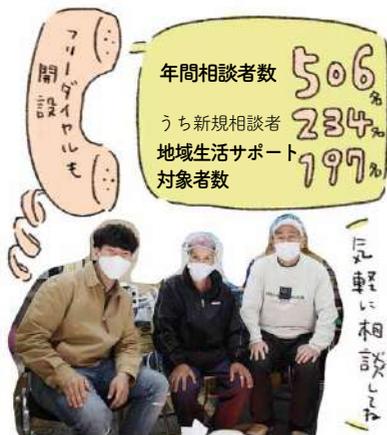


## 活動報告 2. 相談室

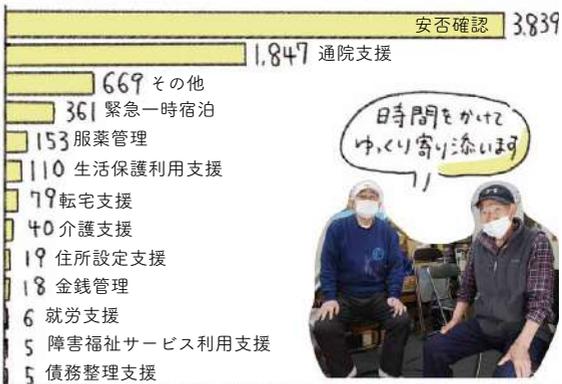


生活上の問題や健康上の問題に対する相談支援、ホームレス状態にあった方が、アパートやドヤ（簡易宿所）等での地域生活に移られた後の地域生活サポート（見守り、関係機関との連絡調整、緊急時対応等）を行っています。来所される方々に対してお茶や日用品も提供しており、山友会を訪れる人々にとっての憩いの場にもなっています。

### ▼ 2020 年度 相談室活動実績



### 【相談・支援内容分類】



### 【2020 年度 長期路上生活者支援事業 事業実績】

1. 巡回回数	医師 24 回（精神科医 12 回 整形外科医 12 回） 看護師 24 回（月 2 回） 生活相談員 48 回（月 4 回）
2. 巡回相談実績	■延べ声掛け人数 931 人（巡回 1 回あたり 19.4 人） ■対象者数 129 人 ※姓名が確認できない対象者が重複して数えられている可能性あり うち、長期路上生活者 74 人 姓名または姓か名が把握できた人数 113 人 ■巡回時医療相談回数 565 回（巡回 1 回あたり 11.8 回）
3. 地域生活移行者	3 名 内訳）簡易宿所 3 名
4. 見守り支援実績	生活相談等に至った人数 58 名（うち長期路上生活者 40 名） 内訳）生活相談 58 名、 山友会クリニックでの無料診療 44 名

## 1 年を振り返って

感染防止のために食堂の活動が休止となってから来所するおじさん達は少なくなり、山友会前の路地は寂しくなりました。ボランティアの参加を中止していた時期もあり、相談室では感染拡大前より少ない人手で来所された方への生活相談とドヤやアパートで暮らす方の見守りを行わなければなりません。

一方で、コロナ禍によって新たに生活に困窮された方に対応するために、フリーダイヤルの開設やメールで寄せられた相談に対応したことで、電話やメールでの相談が多くなりました。

ネットカフェで生活していた 50 歳代の方は、感染が拡大してから仕事ができなくなり所持金が底をついてしまったと相談されました。新型コロナウイルス感染拡大の影響による失業等で住まいを失った方などに対して、東京都が一時提供しているビジネスホテルに宿泊することができた 40 歳代の方からは、食事代は支給されずに困っているとの相談が寄せられました。また、地方から上京した 40 歳代の男性と女性はコロナ禍のために安定した仕事が見つからず、二人でポスティングの仕事をしながらしのいでいましたが、賃金が安いためにいよいよ生活が苦しくなったことで相談に訪れました。

このように今までは異なる相談が寄せられるようになりました。新たに相談される方



は 30～50 歳代の方で、インターネットで山友会のホームページを見て相談される方が多い傾向があります。相談された方に対しては、当座の宿泊費や生活費の援助をしながら生活保護制度などの福祉制度の利用を支援していますが、なかには福祉制度には頼らずに、とりあえず今の状況を切り抜けられれば何とかなると考えている方も多くいらっしゃいました。

相談される方には生きる方向を見失ってしまった方もいらっしゃいます。最初は何を聞いても話をしてくれないこともあります。まずは安心して寝泊まりできる場所を確保して、時間をかけて寄り添っていくと少しずつ話をしてくれることもあります。

山友会では、これまでと変わらず、相談にいらした方が人生に絶望して心閉ざした状態から希望を見出し、笑顔を取りもどせるように取り組んでいきたいと思っています。そして、新型コロナウイルスの感染拡大が一日も早く収束し、山友会に以前のようなおじさん達の笑い声が戻ってくることを祈るばかりです。

（相談室長 菌部）



「大体コロナなんて名前が古いよ！クラウンかトヨペットにすればいいんだ！」

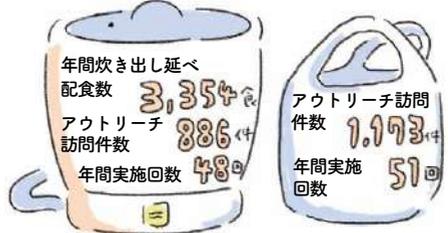
トヨペットの呼び方も古いんですけど。

# 活動報告 3. 炊き出し・ アウトリーチ



山友会では隅田川河川敷で、毎週水曜日にテント生活の方々を訪問するアウトリーチを行い、木曜日には炊き出しとアウトリーチを行っています。多くのボランティアの方々とともに、食事の提供だけでなく生活相談や健康状態の確認なども行っています。

▼ 2020 年度 炊き出し・アウトリーチ 活動実績  
【木曜炊き出し・アウトリーチ】 【水曜アウトリーチ】



## 1 年を振り返って

この一年は、コロナ禍で活動を続けていく難しさを強く感じました。感染拡大当初、「密」になる空間や人との接触は避けなければならない状況で、炊き出しとアウトリーチを続けていくかどうかの決断を迫られました。スタッフとボランティアで話し合い、感染拡大の影響で生活に困る人が増えてくるこの状況だからこそ、活動を続けていくことを決めました。活動を続けるためには、感染防止対策を行わなければならないなりません。ボランティア参加人数を制限し、炊き出しの場所になるべく人が居続けるのを避けるために味噌汁の提供を中止し、炊き出しに並んだ方々にマスクを配布するなどさまざまな感染防止対策を行ってきました。

多くの制限の中で悩みながら炊き出し・アウトリーチの取り組みを続けてきましたが、食事をお渡しした方に感謝される時には勇気付けられます。「いつもありがとう」、「こんな時にも炊き出しやってもらって助かるよ」、「来週も待ってるよ」と声をかけてくれる方がいます。なかには、「あなたたちも大変だね。体には気を付けてね」とこちらを気遣ってくれる方もいます。

感染拡大以降、炊き出しとアウトリーチの活動現場では、今までは見かけることのほとんどなかった若い人や女性、カップルの姿を見かけるようになりました。

ある 40 歳代の女性は、2020 年の夏頃から毎週炊き出しに並んでいます。声をかけると



「住む家がなくなってしまって今は友人宅にいます。仕事もないから食べ物も買えないんです。実は難病があって、病院にも行けていないんです」と言いました。山友会クリニックのことを伝えると、後日来院してくれました。

いつも炊き出しに来る 30 歳代のカップルは、コロッケ弁当やおにぎりを大切に袋に入れて持ち帰ります。「バイトで生活していたんですが、飲食業だったので、コロナの影響をまろに受けました。週 5 日だった勤務が 8 月には週 2 日になって、今年に入ったらクビと言われてしまいました。今はアパートの家賃も滞納してしまって」と話していました。国民健康保険の保険料も払っていないとのことだったので、体調を崩したときには山友会クリニックを受診することや生活相談を勧めました。

多くのボランティアの方々に支えていただきながら、コロナ禍においても「困った人がいるからこそ活動を続けていく」という信念のもと、取り組んでいきたいと思っています。  
(炊き出し・アウトリーチ 後藤)



— (お花見散歩の終わりに) せっかく楽しい散歩だったので、忘れないようにどこに行ったか思い出しましょう。まずどこに着きましたっけ?

## 活動報告 4. 食堂



クリニックの患者さんや相談室の相談者の方など、山友会を訪れた人々に無償で昼食の提供を行っています。一緒に食卓を囲うことで関係づくりのきっかけにもなっており、「心もお腹もいっぱいになる」食堂を目指しています。

※昼食の提供は休止しています



## 1年を振り返って

毎日昼食の準備をし、無償で昼食を提供していた食堂は、2020年4月より新型コロナウイルス感染防止のためにその活動を休止しました。食堂の小さなスペースでは、ソーシャルディスタンスを保つことができないうと判断したからです。

食堂の休止は、毎日食事をしに来ていたホームレスの方々に大きな影響を与えましたが、ウイルスの感染やクラスターとなるリスクがある以上、活動を続けることはできませんでした。それは、誰にとっても悲しいことでした。

9月からは、月に2回ほど約40食のお弁当を用意して上野駅周辺と上野公園で路上生活をされている方に夜に配ってまわる「上野アウトリーチ」の活動を始めました。食堂を利用して路上生活をされている方の多くが上野駅周辺で寝泊まりをしているからです。スタッフといつも活動を手伝ってくれるおじさん達合わせて3名ほどでお弁当を用意して、配りに行くのはスタッフとボランティア合わせて4名ほどで行っています。

夜になると、駅付近では休むスペースを作るために段ボールを組み立てている人をあちこちで見かけます。私たちは駅の周りを歩いて、彼らに声をかけて回ります。お弁当と一緒にマスクなども渡していますが、私たちもマスクと使い捨ての手袋、ゴーグルなどを身につけて感染対策を行っています。

路上生活を余儀なくされている人々は、温



かい食事を受け取ることができ、誰かが自分のことを忘れないでいることに喜んでくれているようです。彼らの中には長い間路上生活をされている方も多くありますが、感染拡大によって仕事や家などすべてを失った方にも出会います。仕事がなくなって貯金が尽きて、家賃も払えなくなって路上に出るしかなかったということです。

冬の間は寒さが厳しいからか上野公園にはテントが少なく、駅や歩道橋の下など、人の往来がある場所で休んでいる方が多かったです。路上生活がいかに難しく、危険であることの証明であるかのようです。

世界的な感染拡大の困難な局面において、私たちは心を込めておいしいと思ってもらえる栄養価の高いものを作ろうと努力しています。

食堂が早く通常の活動に戻って、以前のように毎日昼食を準備できることを願っていますが、感染拡大が収束するまで当面は、ホームレスの方々に手を差し伸べるよりよい方法として、アウトリーチの取り組みを続けていきます。

(食堂 ファビオラ)



「(雨の日に山友会へ来ない仲間について) 靴に穴が開いているから来られないんだよ。靴を山友会で貰って帰ればいいんだよ、靴はいっぱいあるんだから」

# 活動報告 5. 山友荘



山友荘は、元ホームレスの方などで、介護が必要であったり、病気や障害のため一人で暮らすことが難しくなった方のための住まいを提供しています。スタッフが常駐し、生活の見守りや支援を行うほか、食事の提供、医療機関・介護事業所などとの連絡調整を行うことで、入所されている方々の暮らしを支えています。

今年玄関の前で11047



延べ入所者数 (新規入所者 1人)	16人
延べ退所者数 (転居(ドヤ) 1人、 失踪 1人)	2人

▲ 2020年度 山友荘 活動実績



## 1年を振り返って

2020年10月より「日常生活支援住居施設(以下、「日住」)」の制度がスタートし、山友荘も日住に移行し半年が経ちます。山谷地域のいくつかの無料低額宿泊所も日住に移行したようです。日住の制度では、施設に入居している方々一人一人に「個別支援計画」を作成し、それに基づいた支援を行うことが定められています。この個別支援計画は半年ごとに見直しを行うことになっており、現在ちょうど計画の見直しの時期を迎えています。

これまでも入居者の心身状態に変化のあった際やご本人から希望があった際には、その都度ご本人や関係機関の方々と話し合いながら支援を行ってまいりました。ご本人が何を大切にしていきたいのか、どのような生活をしていきたいのか、普段からご本人との対話をおとして一緒に考えてきたことを計画という形に落とし込んでいくことは、改めて入居者の方一人一人のことを考え直す機会になっているように思います。

3月に入居されたNさんは、路上生活の状態から山友会の支援によってドヤで生活できるようになり、山友荘で配膳の仕事をしていました。ある日、交通事故に遭い、そのまま長期の入院となってしまいました。生死の淵をさまようような時期もあった中で、山友会の仲間たちとまた笑い合いたいという想いからリハビリに一生懸命取り組まれ、退院後に



山友荘に入居されました。

当初は「もともと仕事をしていて山友荘を生活の場にするのは抵抗があるのでは」と少し心配していましたが、働いていた頃からスタッフや入居者の方々と分け隔てなく接していたことや、ご本人の気さくな性格もあって、楽しそうに生活を送っている様子です。

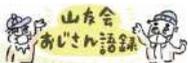
退院後も一生懸命にリハビリに取り組んでいるNさんの個別支援計画の中には、「リハビリを頑張って2階の部屋でも生活できるようになる」ことが目標に含まれています。今は退院直後ということもあって大事をとって1階で生活されていますが、階段の昇り降りがスムーズにできるようになれば、2階で生活することもできるかもしれません。Nさんご自身も、2階で生活することを目標に積極的に階段の昇り降りのリハビリに取り組まれています。

関係機関の方々とも協力しながら、ゆっくりとひとつずつ、入居者の方々一人一人が大切にされていることや希望されていることをご本人と一緒に形にしていければと思っています。(山友荘 石井)



「大体、朝は3時から3時半には起きてるね」

—早い!





## 活動報告 7. 山谷・アート・プロジェクト



オレたちが  
撮った  
写真だよ



©Teruo



©Tokio



©Hiroyoshi



©Misao



©Masaharu



©Jiro



©Hideaki



<取材時のおぼえ>



毎日新聞 掲載記事 2021年4月

## 1年を振り返って

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、撮影会やミーティングの実施が難しく、外出、そして人との関わりを自粛する生活は、被写体となる景色や人との出会いを奪い、撮影の機会をつくるのが難しい1年となりました。

ある時、写真部のメンバーのおじさんが「これ見てよ」とカメラを見せてくれ、そこにはまだ咲いたばかりの桜の花の姿がありました。このような状況でも、メンバーの一人ひとりが身近なものを撮り続けてくれているのだな、と嬉しく感じました。

また、3月には嬉しいことに、活動に興味を持ってくださった新聞社の方が取材に来られました。普段は写真を撮る側のおじさんたちが、この時はプロのカメラマンに撮影される側。玉姫公園というは会商店街に撮影に行き、その楽しい様子とおじさん達の写真は、毎日新聞の夕刊1面に掲載されました。

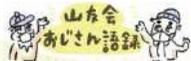
その後のミーティングでは、自分たちが載った新聞を嬉しそうに見つめるおじさん達がありました。「撮影できる喜び」と「表現できる幸せ」、そして「写真を通して社会と関わること」。この3つに、この活動の意義があると思っています。

写真部のメンバーが撮影した写真は、山谷・アート・プロジェクトのサイトでご覧いただけます。是非ご覧ください!

(山谷・アート・プロジェクト  
後藤 高木)



「ウィズコロナ」をテーマにおじさんが発案したキーワード  
・用心している生活 ・この生活は長丁場 ・世間話のありがたみ



# 活動報告 8. 共同墓地の 運営



前年度は感染防止のために自粛していたお墓参りでしたが、この春のお彼岸に3密を避け、感染対策を行った上でおじさん達とお墓参りをしました。



山友会の2階にはおじさんたちの写真もたくさん飾られています



久しぶりに来て、亡くなったみんなを思い出す。とくにやまちゃん。



コロナ禍にお墓参りができてうれしい。



墓参りに来ると、亡くなったまっちゃんを思い出すよ。まっちゃんからもらったファンタグレープがまだ冷蔵庫に残っている。



今年もお参りができて良かった。自分も元気に仕事ができるようにお参りした。



亡くなった仲間の顔を思い出すね。



今年はお墓参りができて仲間に会えたと言って、皆さんよろこんでいました。



「夕方6時半には寝てるよ。夕飯は5時半くらい」  
-ご飯食べてすぐに寝ちゃうんですね〜※朝3時に起きる方とは別人です

# 会計報告

## 活動計算書

特定非営利活動法人 山友会

〔税込〕(単位:円)

自2020年4月1日至2021年3月31日

【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費		120,000	
【受取寄付金】			
受取寄付金	38,219,100		
銀行振込	(7,615,331)		
郵便振替	(20,212,640)		
現金	(2,956,829)		
クレジット	(5,197,000)		
口座振替	(2,221,000)		
携帯募金	(26,300)	38,219,100	
【受取助成金等】			
受取補助金		531,000	
【事業収益】			
自主事業収益(山友荘)	20,146,850		
受託事業収益	15,345,250		
居宅生活移行支援事業	(2,100,000)		
路上生活者巡回相談事業	(7,347,000)		
社会的きずなづくり支援事業	(2,253,350)		
日常生活支援住居施設事業	(3,644,900)	35,492,100	
【その他収益】			
受取利息	234		
雑収益	1,743,079		
謝金	(267,000)		
その他	(1,476,079)	1,743,313	
<b>経常収益計</b>			<b>76,105,513</b>
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
給料手当(事業)	13,651,179		
臨時雇賃金(事業)	17,025,348		
通勤費(事業)	1,273,076		
福利厚生費(事業)	711,034		
人件費計	32,660,637		
(その他経費)			
印刷製本費(事業)	198,860		
新聞図書費(事業)	44,400		
会議費(事業)	11,316		
広告宣伝費(事業)	330,000		
旅費交通費(事業)	198,780		
車両費(事業)	206,956		
通信運搬費(事業)	1,098,430		
消耗品費(事業)	2,700,011		
医療援助費(事業)	1,062,994		
宿泊援助費(事業)	869,250		
その他援助費(事業)	672,080		
修繕費(事業)	739,690		

食材費(事業)	6,301,196		
水道光熱費(事業)	2,257,390		
地代家賃(事業)	4,500,000		
減価償却費(事業)	1,065,901		
保険料(事業)	174,480		
租税公課(事業)	77,750		
支払手数料(事業)	170,380		
雑費(事業)	12,530		
その他経費計	22,692,394		
<b>事業費計</b>		<b>55,353,031</b>	
【管理費】			
(人件費)			
給料手当	2,973,034		
臨時雇賃金	1,696,839		
法定福利費	3,222,710		
通勤費	211,568		
福利厚生費	92,179		
人件費計	8,196,330		
(その他経費)			
印刷製本費	10,206		
会議費	11,500		
研修費	26,600		
旅費交通費	2,650		
車両費	1,200		
通信運搬費	671,277		
消耗品費	242,214		
修繕費	112,130		
保管料	16,181		
減価償却費	18,550		
保険料	122,610		
諸会費	10,000		
リース料	628,560		
租税公課	702,300		
支払手数料	1,306,759		
その他経費計	3,882,737		
<b>管理費計</b>		<b>12,079,067</b>	
<b>経常費用計</b>			<b>67,432,098</b>
<b>当期経常増減額</b>			<b>8,673,415</b>
【経常外収益】			
経常外収益計			0
【経常外費用】			
経常外費用計			0
<b>税引前当期正味財産増減額</b>			<b>8,673,415</b>
<b>当期正味財産増減額</b>			<b>8,673,415</b>
<b>前期繰越正味財産額</b>			<b>127,946,373</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>			<b>136,619,788</b>

特定非営利活動法人 山友会 全事業所

〔税込〕(単位:円)

## 貸借対照表

2021年3月31日現在

《資産の部》		《負債の部》	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		預り金	109,933
現金	174,640	流動負債計	109,933
当座預金	73,947,233	負債合計	109,933
普通預金	44,423,438	《正味財産の部》	
現金・預金計	118,545,311	前期繰越正味財産	127,946,373
流動資産合計	118,545,311	当期正味財産増減額	8,673,415
【固定資産】		正味財産合計	
(有形固定資産)			
土地	9,536,629		
建物	7,271,485		
建物附属設備	147,662		
構築物	1,116,000		
車両運搬具	1		
什器備品	3		
有形固定資産計	18,071,780		
(投資その他の資産)			
差入保証金	12,630		
敷金	100,000		
投資その他の資産計	112,630		
固定資産合計	18,184,410		
<b>資産合計</b>	<b>136,729,721</b>	<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>136,729,721</b>

## 財務諸表の注記

特定非営利活動法人 山友会

2021年3月31日現在

【重要な会計方針】						
財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。						
(1). 固定資産の減価償却の方法						
有形固定資産：旧定額法及び新定額法						
(2). 消費税等の会計処理						
消費税等の会計処理は、税込方式によっています。						
【事業費の内訳】						
事業費の区分は、別紙を参照してください。						
【固定資産の増減内訳】						
科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
建物附属設備	27,826,570			27,826,570	27,678,908	147,662
工具器具備品	1,222,701			1,222,701	1,222,698	3
車両運搬具	1,299,996			1,299,996	1,299,995	1
建物	10,880,377			10,880,377	3,608,892	7,271,485
合計	41,229,644	0	0	41,229,644	33,810,493	7,419,151

## 事業費の内訳（別紙）

特定非営利活動法人 山友会 全事業所

〔税込〕(単位：円)

2021年3月31日現在

科目	無料診療・地域保健事業	給食サービス事業	緊急一時宿泊事業	居住支援事業（山友荘）	生活相談・地域生活支援事業
<b>(人件費)</b>					
給料 手当(事業)	1,342,665	390,000		6,344,206	4,794,308
臨時雇賃金(事業)	2,679,619	1,462,236		10,380,876	2,476,227
通勤費(事業)	257,540	94,520		742,243	178,773
福利厚生費(事業)	88,000	58,440		256,366	308,228
人件費計	4,367,824	2,005,196	0	17,723,691	7,757,536
<b>(その他経費)</b>					
印刷製本費(事業)	24,860	24,857	24,858	24,857	24,857
新聞図書費(事業)					44,400
会議費(事業)					2,396
広告宣伝費(事業)	41,250	41,250	41,250	41,250	41,250
旅費交通費(事業)	3,340	82,990		69,670	42,780
車両費(事業)		100		400	206,456
通信運搬費(事業)	101,925	115,912	101,923	279,946	192,958
消耗品費(事業)	129,116	100,653	9,944	2,316,977	77,274
医療援助費(事業)	1,052,994			10,000	
宿泊援助費(事業)			869,250		
その他援助費(事業)					672,080
修繕費(事業)	250,000	94,200		138,490	257,000
食料費(事業)		279,869		6,021,327	
水道光熱費(事業)		414,435		1,764,217	78,738
地代家賃(事業)				4,200,000	300,000
減価償却費(事業)	18,551	37,101		590,625	419,624
保険料(事業)				93,600	80,880
租税公課(事業)				3,750	74,000
支払手数料(事業)	1,320	220		70,280	2,860
雑費(事業)				2,530	
その他経費計	1,623,356	1,191,587	1,047,225	15,627,919	2,517,553
合計	5,991,180	3,196,783	1,047,225	33,351,610	10,275,089

科目	居場所・生きがいづくりプロジェクト	山谷・アート・プロジェクト	共同基地の維持・管理	普及・啓発事業	合計
<b>(人件費)</b>					
給料 手当(事業)	780,000				13,651,179
臨時雇賃金(事業)		26,390			17,025,348
通勤費(事業)					1,273,076
福利厚生費(事業)					711,034
人件費計	780,000	26,390	0	0	32,660,637
<b>(その他経費)</b>					
印刷製本費(事業)	24,857	24,857	24,857		198,860
新聞図書費(事業)					44,400
会議費(事業)	6,940		1,980		11,316
広告宣伝費(事業)	41,250	41,250	41,250		330,000
旅費交通費(事業)					198,780
車両費(事業)					206,956
通信運搬費(事業)	101,922	101,922	101,922		1,098,430
消耗品費(事業)	21,956	9,943	34,148		2,700,011
医療援助費(事業)					1,062,994
宿泊援助費(事業)					869,250
その他援助費(事業)					672,080
修繕費(事業)					739,690
食料費(事業)					6,301,196
水道光熱費(事業)					2,257,390
地代家賃(事業)					4,500,000
減価償却費(事業)					1,065,901
保険料(事業)					174,480
租税公課(事業)					77,750
支払手数料(事業)			95,700		170,380
雑費(事業)			10,000		12,530
その他経費計	196,925	177,972	309,857	0	22,692,394
合計	976,925	204,362	309,857	0	55,353,031

## 財産目録

特定非営利活動法人 山友会 全事業所

〔税込〕(単位：円)

2021年3月31日現在

<b>(資産の部)</b>			
<b>【流動資産】</b>			
(現金・預金)			
現金	174,640		
当座 預金	73,947,233		
普通 預金	44,423,438		
現金・預金計	118,545,311		
流動資産合計		118,545,311	
<b>【固定資産】</b>			
<b>(有形固定資産)</b>			
土地	9,536,629		
建物	7,271,485		
建物付属設備	147,662		
構築物	1,116,000		
車両運搬具	1		
什器 備品	3		
有形固定資産計	18,071,780		
<b>(投資その他の資産)</b>			
差入保証金	12,630		
敷金	100,000		
投資その他の資産計	112,630		
固定資産合計		18,184,410	
資産合計			136,729,721
<b>(負債の部)</b>			
<b>【流動負債】</b>			
預り金	109,933		
流動負債合計		109,933	
負債合計			109,933
<b>正味財産</b>			
			136,619,788



コロナ禍になってすっかり寂しくなった山友会の前



食食が出せない代わりに食堂ではお弁当を作っています

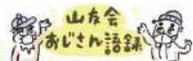
## イベント・講演等／メディア掲載



ホームレス問題や山谷地域で起きている社会的孤立を背景にした問題を根本的に解決していくためには、多くの方々のご協力が欠かせません。ホームレス問題や山谷地域の現状、そして山友会の取り組みを普及し、問題解決に向けた参加を促進するために様々なイベントや講演活動、マスメディア等の取材への対応を行っています。

日付	イベント・講演
2020年 6月10日	東洋大学 社会貢献活動入門2にて講義（アーカイブ） 「NPO 法人山友会のホームレス支援の取り組み」（副代表 油井）
7月10日	成城大学 キャリア・プランニング・プログラムIにて講義（オンライン） 「ホームレス問題から見える社会」（副代表 油井）
7月21日	東海大学 健康科学部 看護学科にて講義（オンライン） 「社会の変化に伴う地域の健康課題と支援の実際」（副代表 油井）
10月12日	Yahoo! JAPAN ドキュメンタリーナイト! トークイベントに登壇 孤独と共生について考える10分「The Last Mile 最後の1マイル」（相談員 後藤）
10月16日	代々木中学校にて講義「ホームレスってどんな人?」（副代表 油井）
10月25日	きむらとしろうじん 野点 バラエティロード山谷2020（オンライン開催）の企画・運営に協力
11月13日	東京アメリカンクラブ women's club チャリティドライブ 山友会
11月21日	ダイバーシティサッカー協会 オンラインイベント 「ホームレスになぜスポーツや文化活動は必要か?」 ～山友会、野武士ジャパンの事例から～に登壇（相談員 後藤）
11月25日	愛知県立大学 教育福祉学部 社会福祉学科にて講演（オンライン） 「孤立に寄り添うホームレス支援」（生活支援員 石井）
12月17日	板橋区立板橋第三中学校 Learning by Giving プロジェクト（日本ファンドレイジング協会）に協力（副代表 油井）
2021年 2月21日	第37回 全国地域・寄せ場交流会～寄せ場とコロナ禍～ 「第二部：単身高齢者を支える山谷の取り組み」に登壇（副代表 油井）

日付	メディア掲載
2020年 5月9日	Yahoo! ニュース 特集 変わる東京・山谷 40年間労働者を支えたカナダ人の「思い」
5月9日	毎日新聞 路上のまなざし：名前のない街・山谷／9止 俺たちの「居場所」
5月20日	TOKYO FM『TOKYO SLOW NEWS』に出演（相談員 後藤） 「東京・山谷に寄り添い続けるカナダ人」
7月17日	都政新報 小池都政2期目の進路～2.0時代（4）／弱者支援／トップの共感ありやなしや
8月18日	ハフポスト 「非正規」から転落、20代の生活困窮も増加 支援現場から見たリーマンとの違い
9月	建築ジャーナル 2020 9月 特集「山谷・寿町と釜ヶ崎」   座談会「コロナ下の山谷から考える」
9月	のんびる 2020 9・10月号 買って応援! 寄付して応援!   生活困窮者の「生命を守る砦」に協力を 特定非営利活動法人 山友会
10月8日	Yahoo! クリエイターズプログラム DOCS for SDGs 『The Last Mile 最後の1マイル』（深田志穂 監督）
12月16日	NHK ラジオ Nらじ ニュースアップ「コロナ禍で変化を求められる山谷」
12月24日	BIG ISSUE ONLINE ホームレスの人がスポーツやアートを楽しむのは「贅沢」ではなく 「文化的な最低限度の生活」の第一歩
2021年 2月17日	北海道新聞 立ち向かう新型コロナ／東京・山谷 NPO 感染抑止と両立模索／路上生活者支え続ける



（最近姿を見せない仲間について）浅草のパチンコ屋で見たよ。元気そうだった。

## ご支援について

### ボランティアさんからのメッセージ

相談室にボランティアとして関わって5年。通院同行や生活保護申請の同行、訪問などを通じて、いろいろな人たちとかわりを持つことができました。様々な人生がここにはあります。過去の色々な「挫折」とそれを乗り越えるたくましさ。それぞれの人にステキさと面白さがあります。そして、人と人の間のつながりがあります。ここ山友会に来るたびに教えられたり、大笑いしたり、ほっとしたり。山友会は私にとって大切な場です。コロナ禍が続いて山友会に来られる方も多様化し、支援の難しい方も多くなって来た印象がありますが、スタッフのみなさんに助けられ、何よりもおじさんたちに助けられて、これからも関わって行きたいと思っています。

(村田 修二様)



### 企業・団体からのご支援



ハンドジェル 300本  
株式会社洋光様



布マスク 200枚  
キーン・ジャパン  
合同会社様



ペットボトルの水 200本  
プレミアムウォーター  
株式会社様

※2021年6月現在、マスク、アルコールジェルについては在庫が十分にある状況でございます。衛生用品の募集状況につきましてはホームページ内「ご支援について」のページを更新しておりますので、寄付をご検討の方は、大変お手数ですがご一読いただけますと幸いです。

一般財団法人メイスン財団様より山友会クリニック薬品購入費用とシェルター宿泊費用のご支援、在日米商工会議所様より活動費用のご支援、東京アメリカンクラブ Women's Group 様より活動費用と物品のご支援、株式会社カタログハウス様より活動費用と物品のご支援をはじめ、多くの法人と個人の方々よりご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

## ご支援のお願い

### 【マンスリーサポーターに参加する】(毎月の寄付)

クレジットカード決済・口座振替のいずれかをお選びいただけます。お申込み方法などの詳細は山友会ホームページ (<https://sanyukai.or.jp/monthlysupporter>) をご覧いただくか、山友会事務局までお問い合わせください。

### 【寄付をする】

#### －ご寄付の方法

- ・郵便振替をご利用の場合

00100-2-158990 加入者名：山友会

- ・クレジットカードをご利用の場合

<https://sanyukai.or.jp/donation>

上記 URL より、クレジットカード決済システムを利用してご寄付ください。

※寄付金受領証明書は1月1日～12月31日までの1年間の合計寄付金額を記載し、翌年1月～2月ごろにお届けいたします。

※寄付金受領証明書の郵送は年間寄付額1,000円以上とさせていただきます。恐れ入りますが、ご理解の程宜しく願い申し上げます。

※銀行振込をご希望の方は事務局までお問い合わせください。



### 【物品で支援する】

2021年6月現在つぎのものを募集しております。

- －食 品・・・米(精米済)、アルファ米 ※賞味・消費期限内のもの
- －雑 貨・・・タオル、靴下、ティッシュペーパー、トイレトペーパー、ごみ袋(半透明か透明のもの・45L) など
- －その他・・・未使用切手、書き損じはがきなど



### 【ご覧ください】

#### YouTube 動画「映像で見る2020年度活動報告」



日々の活動をビデオで撮影し、「映像で見る活動報告」として動画編集しました。各事業の担当者が、2020年度どのように活動してきたのかを報告しています。



NPO  
**山友会**  
特定非営利活動法人  
SANYUKAI

特定非営利活動法人 山友会

〒111-0022 東京都台東区清川 2-32-8

TEL : 03-3874-1269 FAX: 03-3874-1332

MAIL : [info@sanyukai.or.jp](mailto:info@sanyukai.or.jp)

WEB : <https://sanyukai.or.jp>

